

5.6 低周波音

5.6.1 現況調査

(1) 調査内容

事業計画地周辺における低周波音の状況を把握するため、既存資料調査及び現地調査を実施した。

現地調査は、事業計画地周辺の専門学校及び病院近傍の2地点において、低周波音の1/3オクターブバンド周波数分析を行った。

調査の内容は表5-6-1に、現地調査地点の位置は図5-6-1に示すとおりである。

表 5-6-1 調査内容

調査対象項目	調査対象範囲・地点	調査対象期間	調査方法
低周波音の状況	大阪府	至近年	既存資料調査 大阪府環境白書 平成 20年版(大阪府、平成 20年12月)
低周波音 ・G特性音圧レベル ・1/3オクターブバンド周波数分析	事業計画地周辺 : 2地点	(平日) ・平成20年 11月12日(水)12時 ~13日(木)12時 (休日) ・平成20年 11月9日(日) 0~24時	現地調査 低周波音の測定方 法に関するマニユ アルに準拠



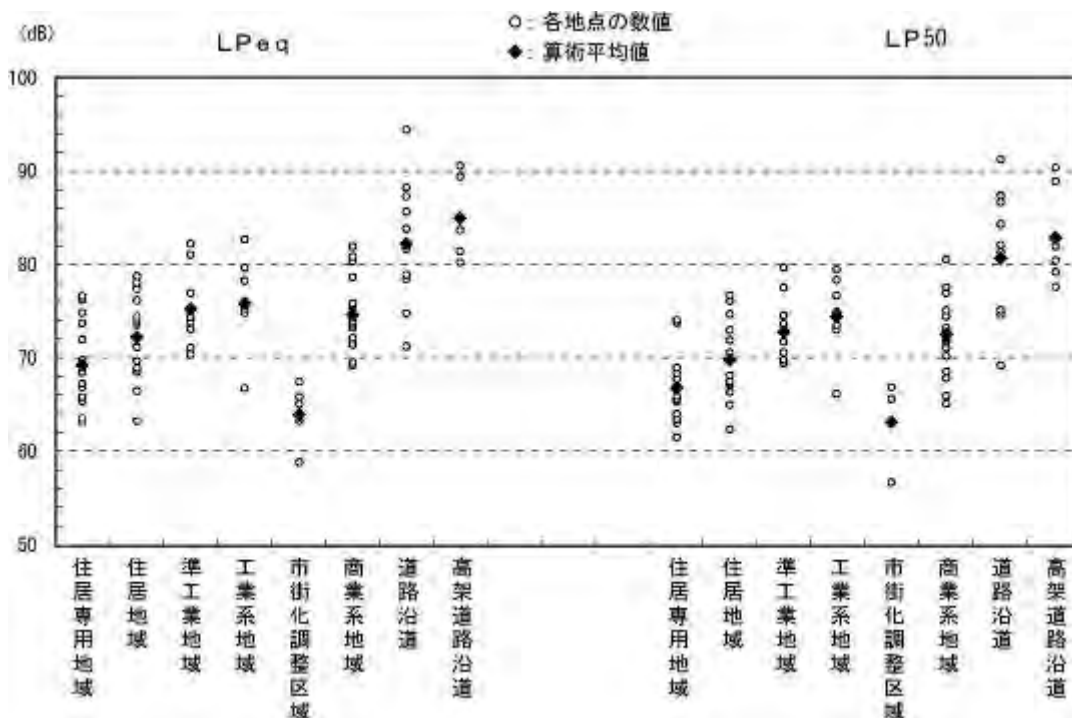
図 5-6-1 現地調査地点図

(2) 調査結果

低周波音の状況

a . 一般環境中の低周波音

大阪府では、一般環境中の低周波音の実態を把握するために、平成 14 年～16 年度に府下 93 地点で測定を実施している。その結果は、図 5-6-2 に示すとおりである。



出典：「大阪府環境白書 平成 20 年版」（大阪府、平成 20 年 12 月）

図 5-6-2 大阪府内における一般環境中の低周波音の音圧レベル

b . 低周波音に係る苦情件数

「大阪府環境白書 平成 20 年版」（大阪府、平成 20 年 12 月）によると、平成 18 年度の低周波音に係る苦情件数は 26 件であり、府域の全公害苦情件数 5,010 件の 0.5% を占めている。

現地調査

低周波音レベルの測定は、1/3 オクターブバンド中心周波数 1 ~ 80Hz の範囲について測定を行った。各時間のデータは騒音に係る環境基準の時間区分に準拠し、昼間（6 ~ 22 時）及び夜間（22 ~ 6 時）において平均した。

低周波音の G 特性音圧レベル調査結果は表 5-6-2 に、周波数分析結果は図 5-6-3(1)、(2)に示すとおりである。

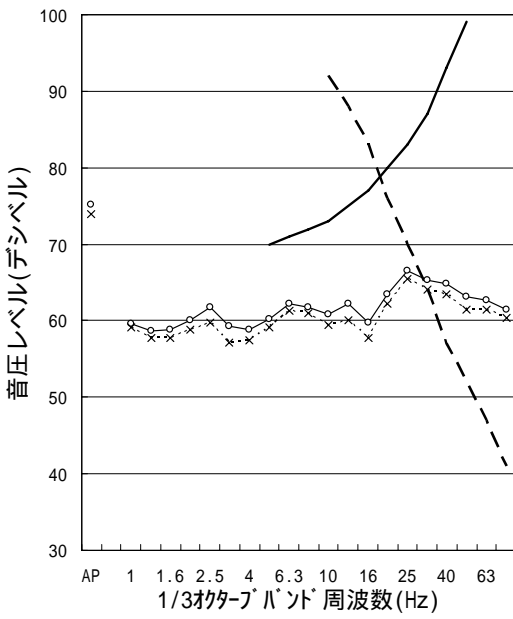
事業計画地周辺での低周波音の G 特性音圧レベル（dB(G)）は、最大で 77 dB(G)であり、「低周波音問題対応の手引書」（環境省、平成 16 年）に記載されている低周波音の心身に係る苦情に関する参照値とされる、92dB(G)を下回っていた。また、1/3 オクターブバンド幅での周波数分析結果では、物的苦情に関する参照値については下回っていたが、心身に係る苦情に関する参照値については 31.5Hz もしくは 40Hz 以上において上回っていた。

表 5-6-2 低周波音調査結果（G 特性音圧レベル）

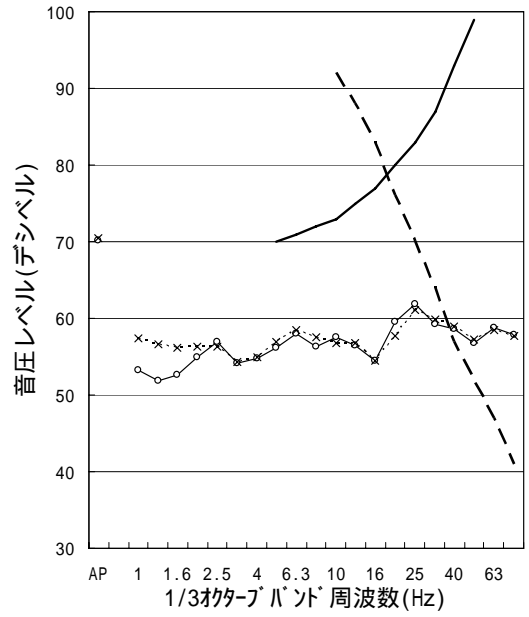
調査地点	時間区分	G 特性音圧レベル（L _{eq} ） （dB(G)）		心身に係る苦情に関する参照値
		平日	休日	
環境 1	昼間	75	73	92
	夜間	70	69	
環境 2	昼間	77	75	
	夜間	74	72	

注：心身に係る苦情に関する参照値：出典「低周波音問題対応の手引書」（環境省、平成 16 年）

昼間



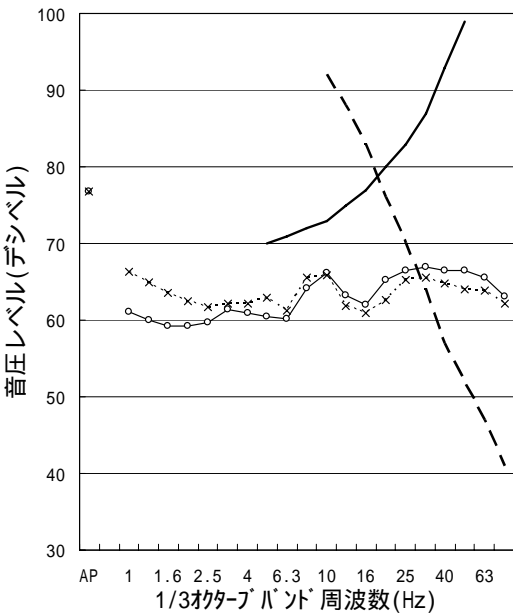
夜間



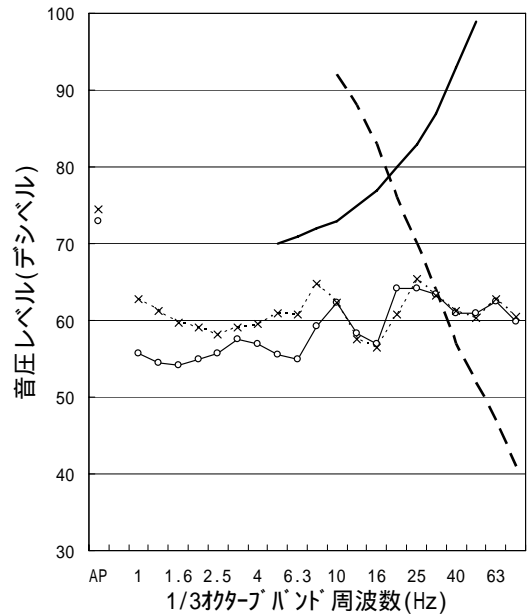
- 平日 (現況音圧レベル)
- × --- 休日 (現況音圧レベル)
- 物的苦情に関する参照値
- 心身に係る苦情に関する参照値

図 5-6-3(1) 低周波音調査結果 (1/3 オクターブバンド周波数分析: 環境 1)

昼間



夜間



- 平日 (現況音圧レベル)
- × --- 休日 (現況音圧レベル)
- 物的苦情に関する参照値
- 心身に係る苦情に関する参照値

図 5-6-3(2) 低周波音調査結果 (1/3 オクターブバンド周波数分析: 環境 2)

5. 6. 2 施設の利用に伴う影響の予測・評価

(1) 予測内容

施設の利用に伴う影響として、施設の供用により発生する低周波音が事業計画地周辺に及ぼす影響について、数値計算により予測した。予測内容は表 5-6-3 に、予測地点の位置は図 5-6-4 に示すとおりである。

各施設の屋外設置設備等を対象とし、事業計画地周辺 2 地点（環境 1・2）において予測した。

予測時点は施設供用時、予測高さは地上 1.2m 及び最も影響のある高さについて予測を行った。

表 5-6-3 予測内容

予測項目	対象発生源	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
施設の稼働により発生する低周波音の影響 ・低周波音レベル (G特性音圧レベル 1/3 オクターブバンドレベル)	屋外設置設備	事業計画地周辺：2 地点 (低周波音調査地点と同地点)	施設供用時	半自由空間における点音源の距離減衰式により予測



図 5-6-4 施設供用後低周波音予測地点

(2) 予測方法

予測手順

施設の供用により発生する低周波音の予測手順を図 5-6-5 に示す。

施設から発生する低周波音について、設備計画をもとにこれらの配置及びパワーレベル等を設定した。

そして、発生源を点源として音の伝搬理論に基づく予測計算を行い、各機器からの到達音圧レベルを予測した。また、得られた到達音圧レベルに現況音圧レベルを合成し、総合音圧レベルを予測した。

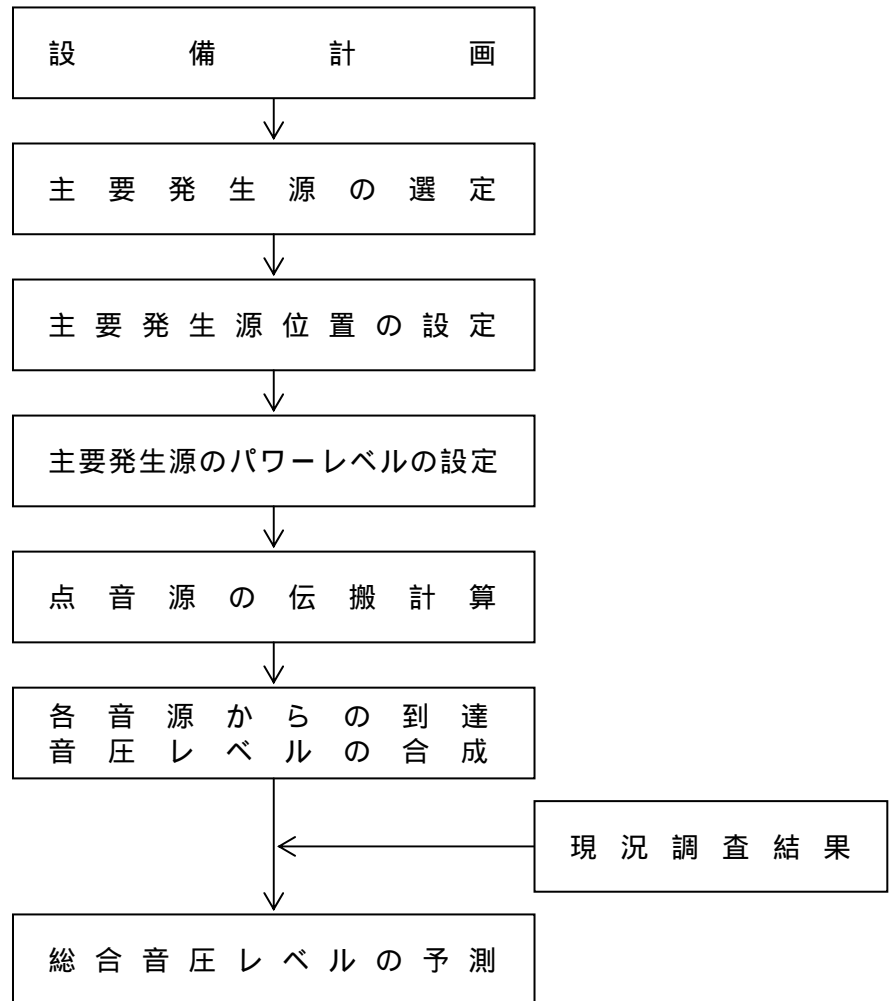


図 5-6-5 施設の供用により発生する低周波音の予測手順

予測モデル

a . 予測式

各予測地点への到達音圧レベル予測式としては、距離による減衰のみを考慮した形で表される次式を用いた。

$$L_i = \text{PWL}_i - 20 \log_{10} r - 8$$

L_i : 到達音圧レベル (デシベル)

PWL_i : 点音源のパワーレベル (デシベル)

r : 音源・受音点間距離 (m)

b . 到達音圧レベルの合成

各発生源からの到達音圧レベルの合成は次式を用いた。

$$L_t = 10 \log_{10} (10^{L_i/10})$$

L_t : 全発生源からの総合到達音圧レベル (デシベル)

L_i : 各点源からの到達音圧レベル (デシベル)

予測条件

供用後に稼働する空調設備等のパワーレベル、設置台数及び周波数特性を表 5-6-4(1)、(2)に示す。低周波音発生源は屋外に設置されるもののうち、低周波音を発生させると想定される冷却塔とした。そのパワーレベルについては、文献等により設定した。各設備の配置を図 5-6-6 に示す。

表 5-6-4(1) 低周波音発生源のパワーレベル

設備名称	規格	台数	パワーレベル (デシベル)	稼働時間
冷却塔	2.2kW	18	107.7	8:00～22:00

表 5-6-4(2) 空調設備等の周波数特性

設備名称	1/3 オクターブバンドレベル (Hz)																				AP
	1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80	
冷却塔	96.4	95.9	94.9	90.7	92.1	90.8	89.7	89.8	92.5	89.2	88.3	91.3	89.6	97.6	96.5	92.9	94.5	96.1	100.1	96.5	107.7

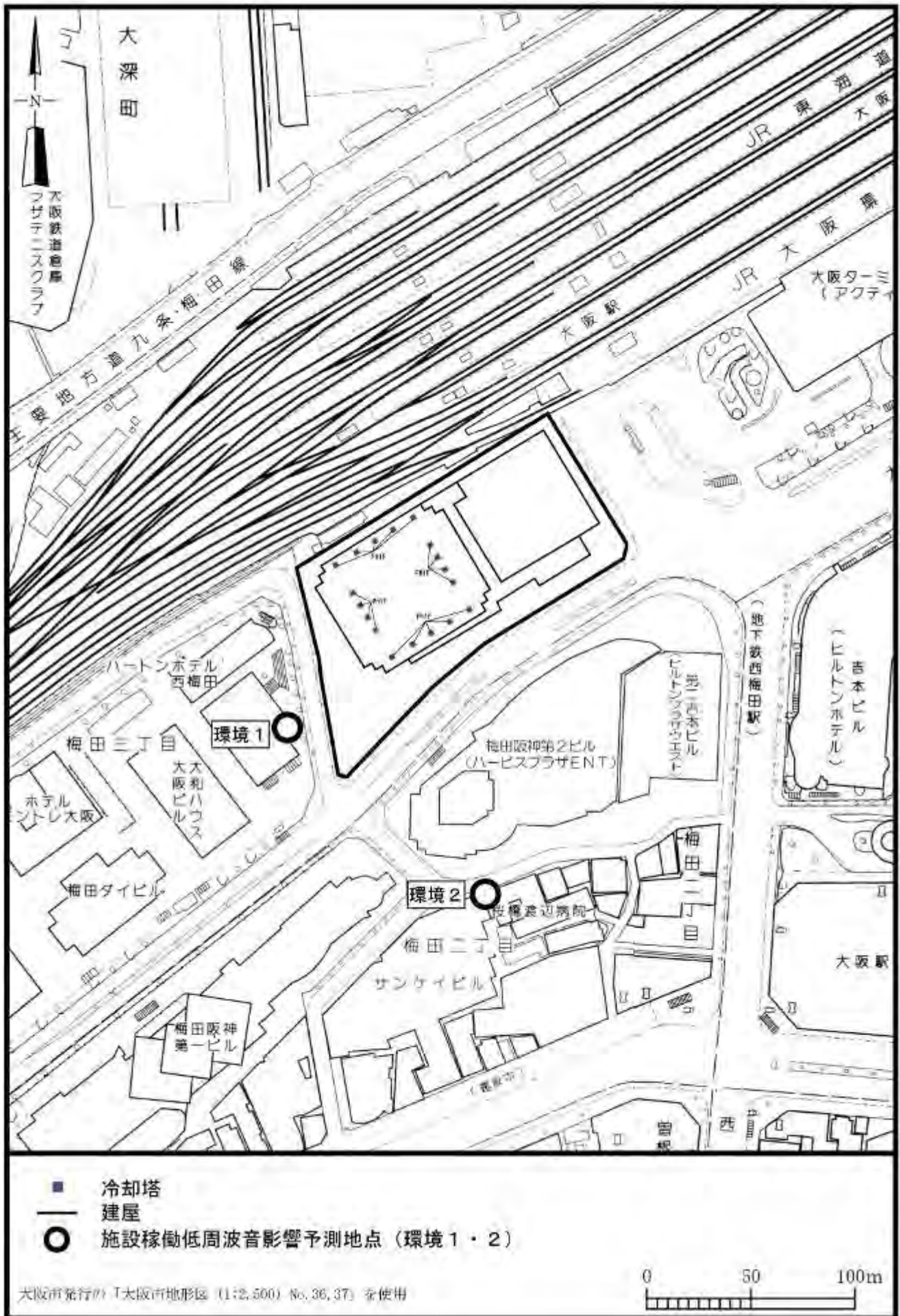


図 5-6-6 空調設備等配置図

(3) 予測結果

空調設備等の稼働による低周波音の到達G特性音圧レベルと、現況G特性音圧レベルを合成した総合音圧レベルの予測結果を表 5-6-5 に、1/3 オクターブバンドレベルの予測結果を図 5-6-7 に示す。

到達G特性音圧レベルは環境 1 の地上 1.2m で 66dB(G)、最も影響のある高さ 59m で 69dB(G)、環境 2 では地上 1.2m で 65dB(G)と予測された。なお、環境 2 についても高さ方向についての予測を行ったが、到達G特性音圧レベルは地上 1.2m の値と同等以下であった。総合G特性音圧レベルは環境 1 の地上 1.2m、最も影響のある高さ 59m とともに最大 76dB(G)、環境 2 の地上 1.2m で最大 77dB(G)になると予測され、「低周波音問題対応の手引書」(環境省、平成 16 年)に記載されている心身に係る苦情に関する参照値である 92db(G)を下回ると予測された。

なお、機器の稼働は昼間の時間帯のみである。

1/3 オクターブバンドレベルの予測結果は図 5-6-7(1)、(2)に示したとおりであり、物的苦情に関する参照値を下回ると予測された。

心身に係る苦情に関する参照値との比較については、平日・休日ともに昼間は 31.5Hz 以上、夜間は 40Hz 以上において参照値を上回るものと予測されたが、これは現況音圧レベルで既に参照値を上回っているためであり、本事業の実施による音圧レベルの上昇は小さいと予測された。なお、この参照値とは屋内を想定した値であり、実際の到達音圧レベルは建物による減衰が見込まれるため、屋内において心身に著しい影響を与えることはないと考えられる。

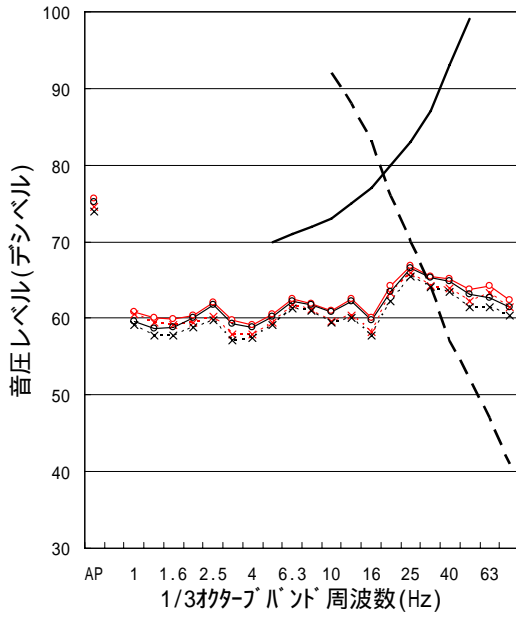
表 5-6-5 空調設備等の稼働による低周波音予測結果と評価値との比較

単位：dB(G)

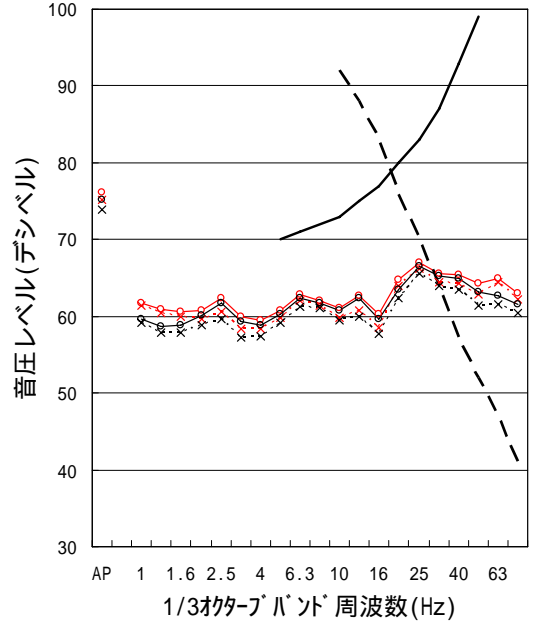
予測地点	平休	時間区分	到達音圧レベル	現況音圧レベル	総合音圧レベル	現況からの増加分	心身に係る苦情に関する参照値
環境 1	平日	昼間	66 (69)	75	76 (76)	0.5 (1.0)	92
	休日	昼間	66 (69)	73	74 (74)	0.8 (1.5)	
環境 2	平日	昼間	65	77	77	0.3	
	休日	昼間	65	75	75	0.4	

- 注：1. 表中の値は G 特性音圧レベル (dB(G)) である。
 2. 環境 1 の () 内の値は、最も影響のある高さでの予測値であり、高さは 59m である。
 3. 環境 2 についても、高さ方向の予測を行ったが、到達 G 特性音圧レベルは地上 1.2m の値と同等以下であった。
 4. 心身に係る苦情に関する参照値：出典「低周波音問題対応の手引書」(環境省、平成 16 年)
 5. 到達音圧レベル、現況音圧レベルおよび総合音圧レベルは心身に係る苦情に関する参照値との比較から整数値で示した。ただし、現況からの増加分については、施設の供用による影響をより詳細に把握するため、小数点第 1 位まで示した。

地上 1.2m



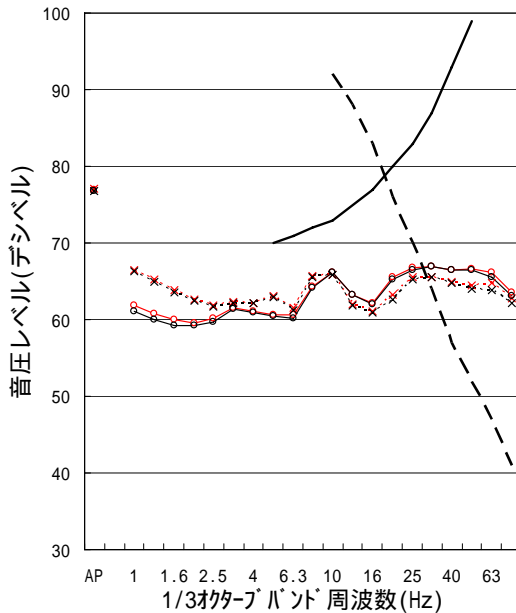
地上 59m



- 平日（現況音圧レベル）
- - - 休日（現況音圧レベル）
- 平日（総合音圧レベル）
- - - 休日（総合音圧レベル）
- 物的苦情に関する参照値
- - - 心身に係る苦情に関する参照値

図 5-6-7(1) 低周波音予測結果（1/3 オクターブバンド周波数分析：環境 1）

地上 1.2m



- 平日（現況音圧レベル）
- - - 休日（現況音圧レベル）
- 平日（総合音圧レベル）
- - - 休日（総合音圧レベル）
- 物的苦情に関する参照値
- - - 心身に係る苦情に関する参照値

図 5-6-7(2) 低周波音予測結果（1/3 オクターブバンド周波数分析：環境 2）

(4) 評価

環境保全目標

低周波音についての環境保全目標は、「環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること」、「大阪市環境基本計画の目標、方針の達成と維持に支障がないこと」とし、本事業の実施が事業計画地周辺の低周波音に及ぼす影響について、予測結果を環境保全目標に照らして評価した。

評価結果

本事業においては、空調設備等について、低騒音・低振動型の設備を可能な限り採用し、周辺への低周波音の影響をできる限り軽減する計画である。

供用後の空調設備等の稼働による低周波音の到達G特性音圧レベルと、現況G特性音圧レベルを合成した総合音圧レベルの予測結果は表 5-6-5 に示したとおりであり、総合G特性音圧レベルは、「低周波音問題対応の手引書」（環境省、平成 16 年）に記載されている心身に係る苦情に関する参照値である 92dB(G)を下回ると予測された。

また、1/3 オクターブバンドレベルの予測結果は図 5-6-7(1)、(2)に示したとおりであり、物的苦情に関する参照値を下回ると予測された。

心身に係る苦情に関する参照値との比較については、平日・休日ともに昼間は 31.5Hz 以上、夜間は 40Hz 以上において参照値を上回るものと予測されたが、これは現況音圧レベルで既に参照値を上回っているためであり、本事業の実施による音圧レベルの上昇は小さいと予測された。なお、この参照値とは屋内を想定した値であり、実際の到達音圧レベルは建物による減衰が見込まれるため、屋内において心身に著しい影響を与えることはないと考えられる。

以上のことから、周辺環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮されていること、事業による影響は、周辺地域に著しい影響を及ぼすことはなく、大阪市環境基本計画の目標、方針の達成と維持に支障がないと考えられることから、環境保全目標を満足するものと評価する。